

3. パターンを用いたデザイン

パターンを組み合わせランゲージとして展開することで、デザインする方法を示します。

(1) デザインの方法

パターンを使ったデザインは、次の手順で行います。

1 敷地周辺の景観の特性を読みとる

周辺にどんなパターンがあるか探す



2 どのように建てれば良いかを考える

周辺の景観特性との関係性を考える



3 使えるパターンを考える

周辺のパターンと馴染みの良いパターンの中から考える



4 パターンを組み合わせでデザインを考える

パターンの組み合わせにより演出意図(ストーリー)を考え、デザインする

(2) ランゲージによるデザインの例

○景観的な特徴のある場所でのデザイン例

1. 住宅地
2. 古くからの集落
3. 田園風景
4. 中高層マンション
5. 商店街
6. ロードサイド店舗
7. 工業地

1. 住宅地でのデザインの例

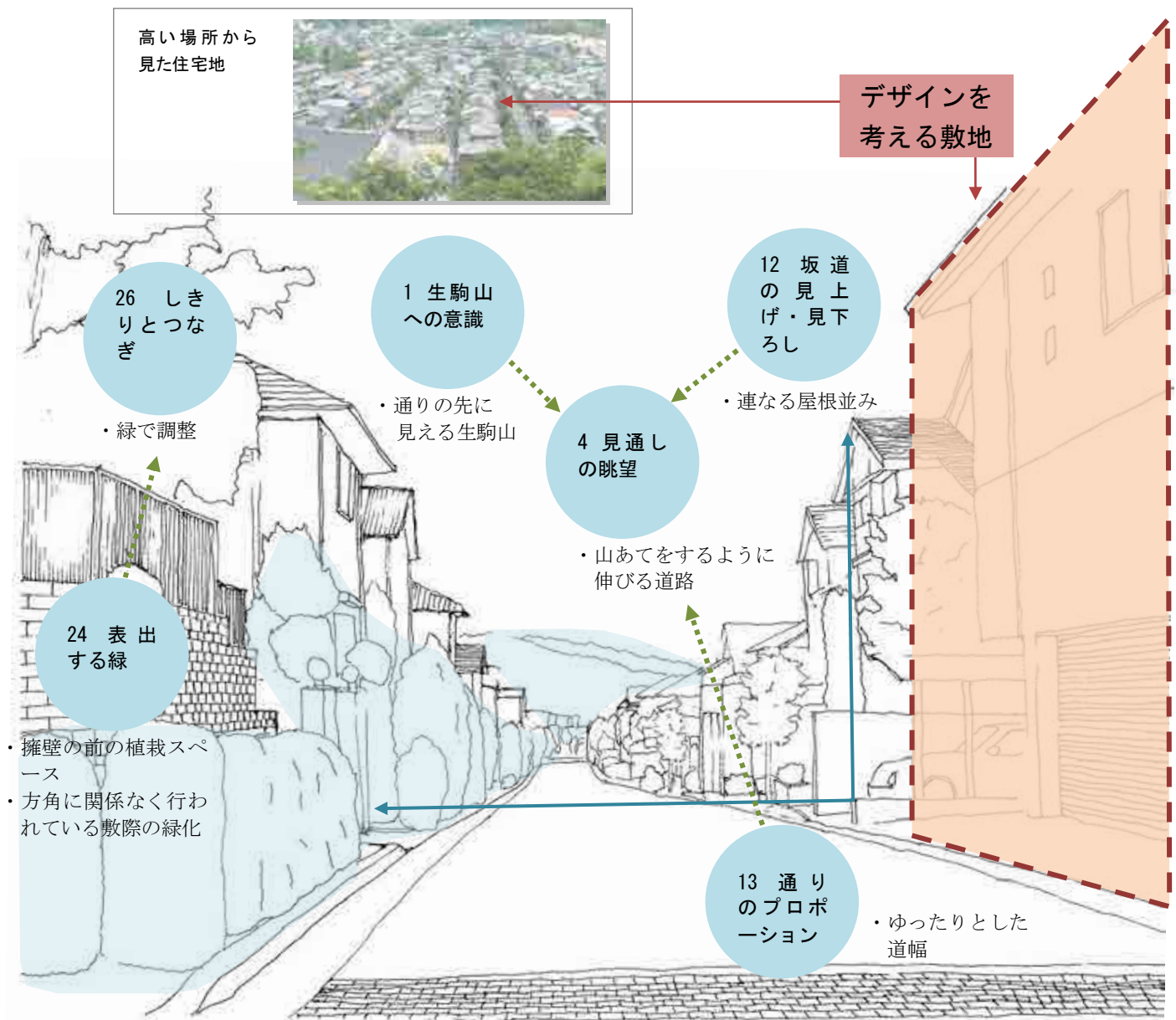
(1) 敷地周辺の景観の特性を読みとる

○落ち着いた通りの景観

- ・ ゆったりとした道幅で、見通しがよく、緩やかな下り坂が連なる屋根並みをつくりだし、視線を奥へと導くような景観です
- ・ 通りの先には生駒山が見え、ランドマークとなっています

○緑豊かな印象

- ・ 左手側の敷地には高低差のための小さな擁壁があり、その前面は緑化されていて、北向きの敷地ではありますが緑の豊かな印象を与えています
- ・ 離れた高い場所からこの住宅地を見ると、家々の緑が連なって、緑の帯のように見えます



(2) どのように建てれば良いかを考える

●緑が連続するようにして、うるおいがあり
住み心地のよさそうな住宅地の印象を守り
たい

●子どもが安心して遊べるような通りにな
ってほしい

(3) 使えるパターンを考える

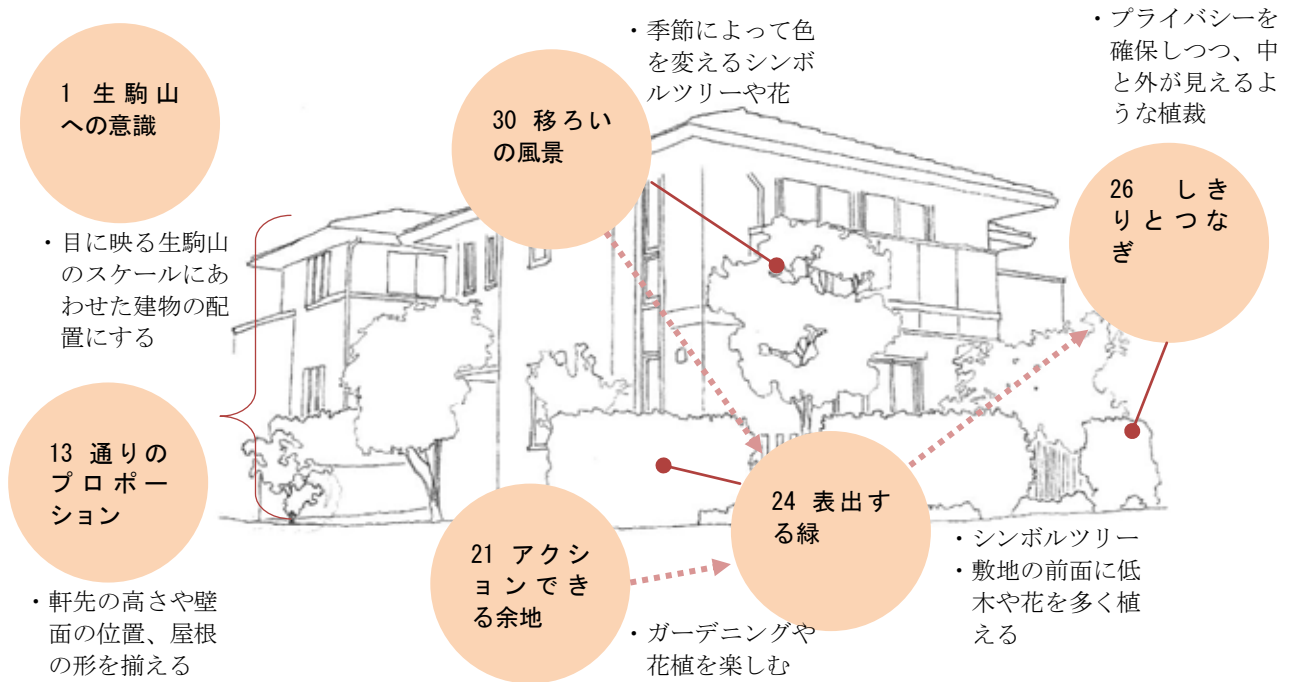
●生駒山への意識

●通りのプロポーション

●アクションできる余地/移ろいの風景

●表出する緑/しきりとつなぎ

(4) パターンを組み合わせてデザインを考える



通りの先に生駒山が映える通りの風景を守っていくためには、建物の屋根の高さが揃っていることが大切ではないかと考え、近所の家と建物の壁の位置や屋根の高さが揃うように気をつけました。

通りでは子どもたちに安心して遊んでもらいたいので、敷地の中から通りを見守ることができるように、やわらかなしきりにすることにしました。そのために、敷地に低めの植え込みをつくり、ほどよく目隠しできるような位置にシンボルツリーを配置しました。

また、緑豊かなまちなみを隣ともつなげ、歩いて気持ちの良い通りにしたいと考え、通りに面する敷地側にできるだけ花や低木の緑を多く配置して、緑や花に包まれた家のようなしつらえとし、ガーデニングを通じて、季節によって変化する緑や花の移ろいも楽しめるようにしました。

2. 古くからの集落でのデザインの例

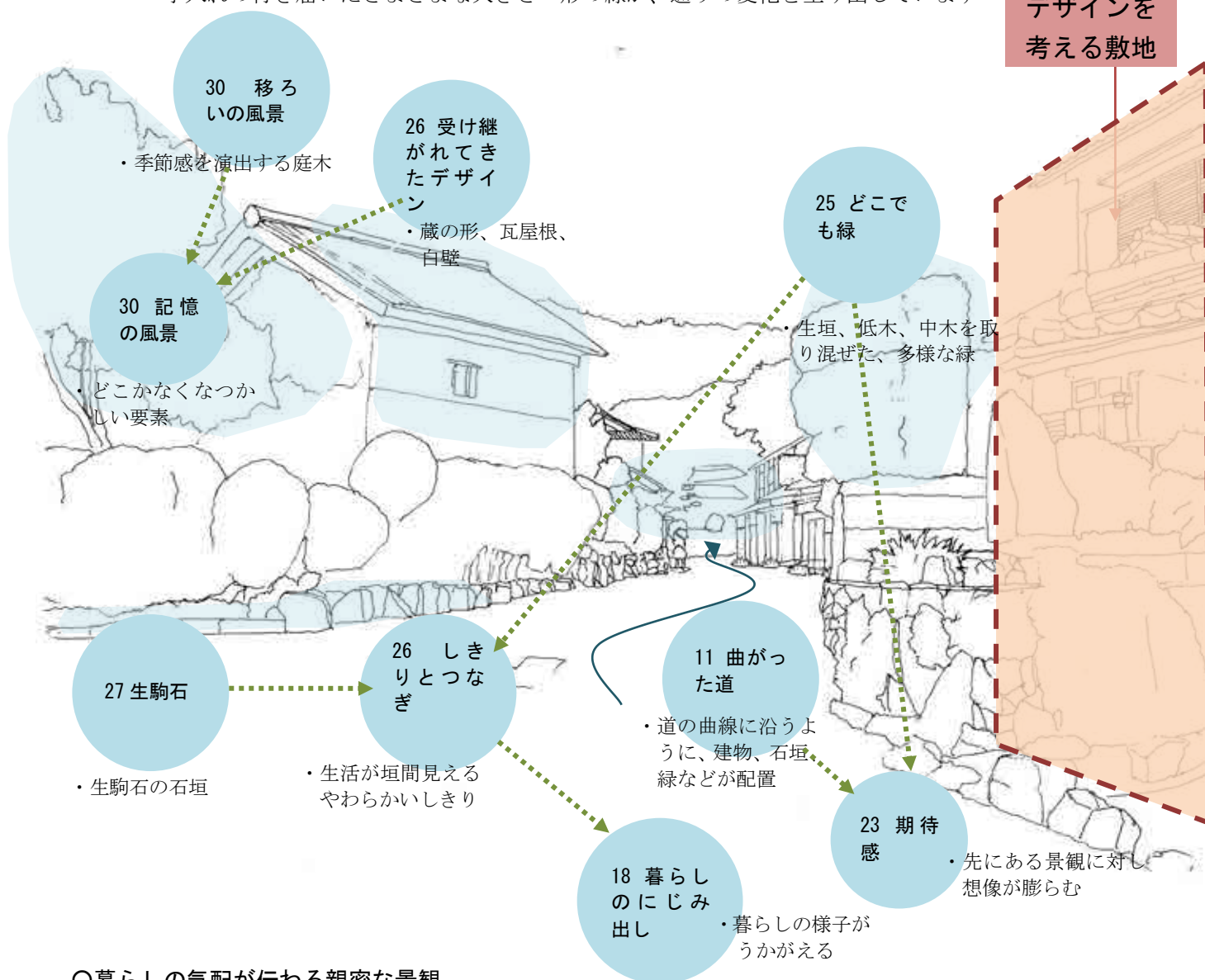
(1) 敷地周辺の景観の特性を読みとる

○昔をしのばせる要素のある景観

- ・蔵の形、瓦屋根、白壁など、その場所で永く受け継がれてきたデザインが見られ、季節ごとに表情を変える樹木ともあいまって、昔から続いてきた記憶の風景を呼び起こします

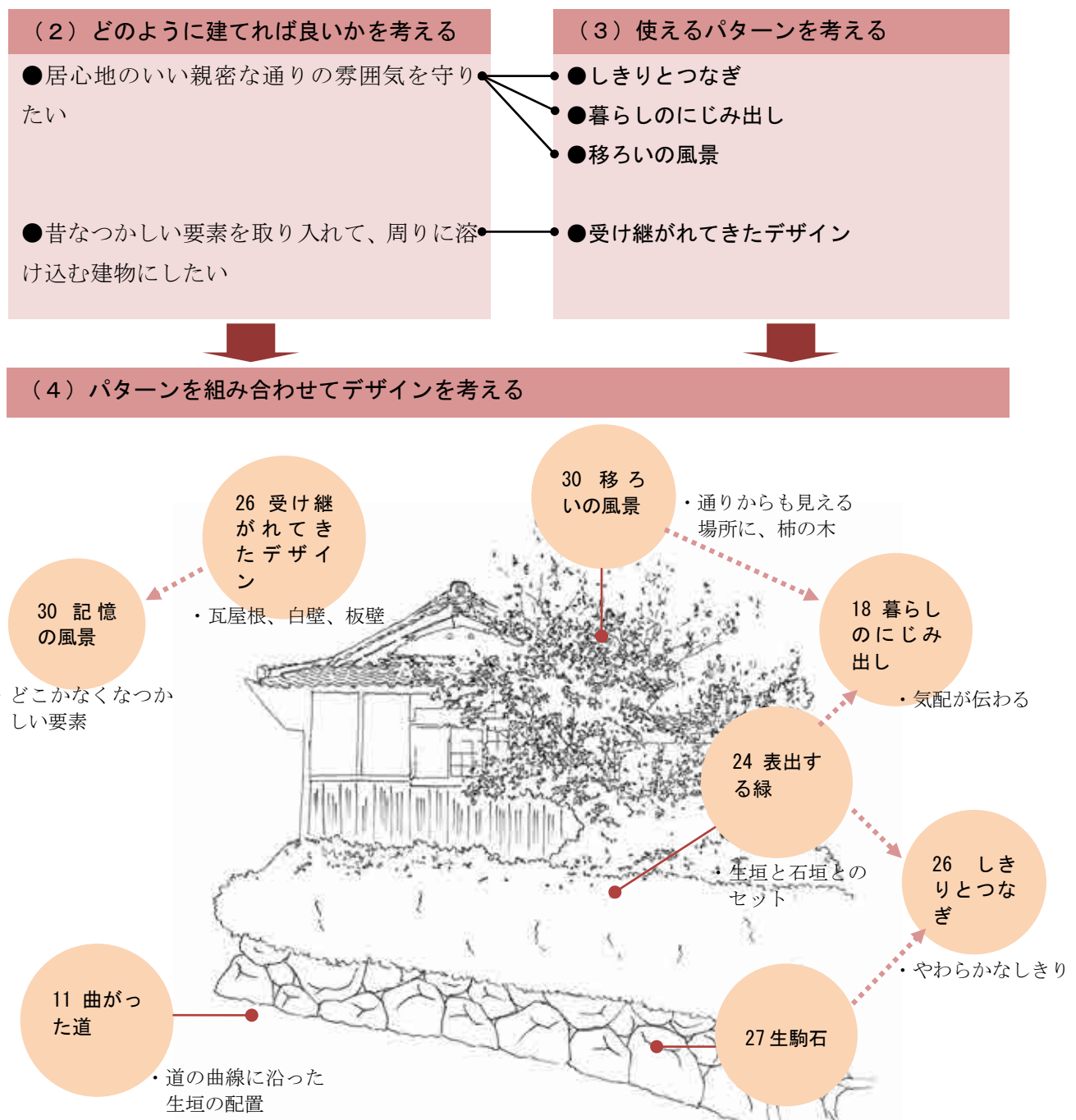
○連続的に変化する期待感のある景観

- ・道が曲がっており奥まで見通すことができないため、道の先に何があるのか想像がふくらみます
- ・手入れの行き届いたさまざまな大きさ・形の緑が、通りの変化を生み出しています



○暮らしの気配が伝わる親密な景観

- ・生け垣や生駒石、受け継がれたデザインによる屋根や漆喰壁などの自然素材の風合いが、親密で落ち着きのあるまちなみの印象を与えます
- ・やわらかなしきり越しに生活の様子がうかがえ、通りを歩く人は、住んでいる人の暮らしの気配を感じることができます



この地域の居心地のいい親密な通りの雰囲気を、自分の敷地でも採り入れたいと考えました。家の中から通りが見え、通りからは私たちの生活の息づかい（例えば物音や匂い）が感じられるような、**やわらかいしきり方**をめざして、周りのお宅でも見られるような生垣・石垣を採り入れました。

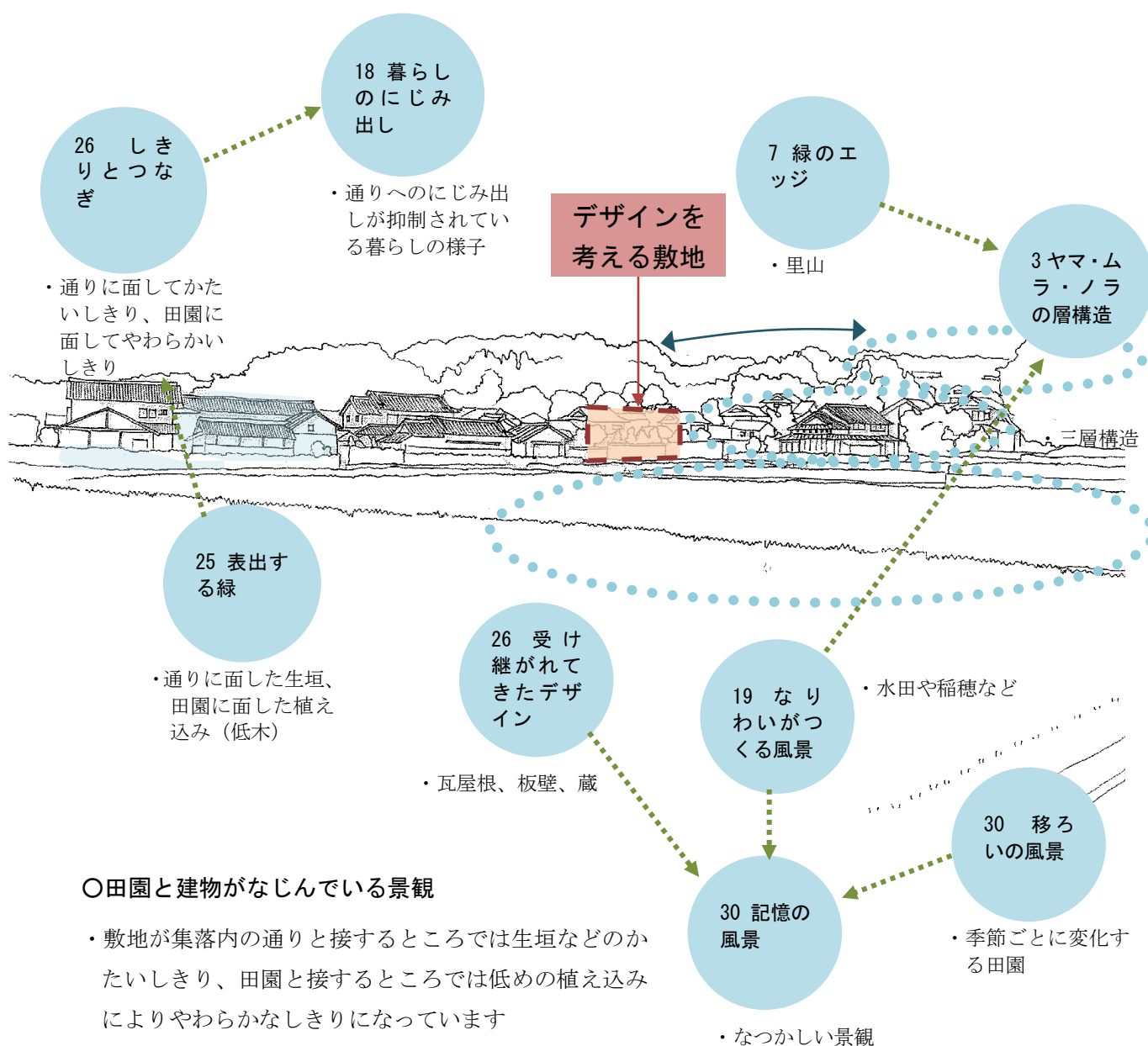
さらに、自分の家が周りの家の雰囲気にもなじむように、瓦屋根、白壁、板壁などの**伝統的な要素**を取り入れました。そして、**緩やかに曲がった道**に沿って、石垣と生垣を配置して、家との隙間にうまく柿の木を植えて、道行く人もまちなみの変化や**季節感**を楽しめるようにしました。

3. 田園風景でのデザインの例

(1) 敷地周辺の景観の特性を読みとる

○昔なつかしいような田園の景観

- ・夏は水田、秋は稲穂、そして刈り入れなど、一年を通して移り変わる田んぼ〈ノラ〉と、その向こうに見える家々のかたまり〈ムラ〉、奥に見える里山〈ヤマ〉が一体となっています
- ・背景に映る里山は、水平につながって、緑のエッジとなっています
- ・大きな瓦屋根や板壁などの伝統的なデザインの要素や、蔵などの古くからの様式が見られます



○田園と建物がなじんでいる景観

- ・敷地が集落内の通りと接するところでは生垣などのかたいしきり、田園と接するところでは低めの植え込みによりやわらかなしきりになっています
- ・通りには暮らしのにじみ出しが抑えられるように工夫されています

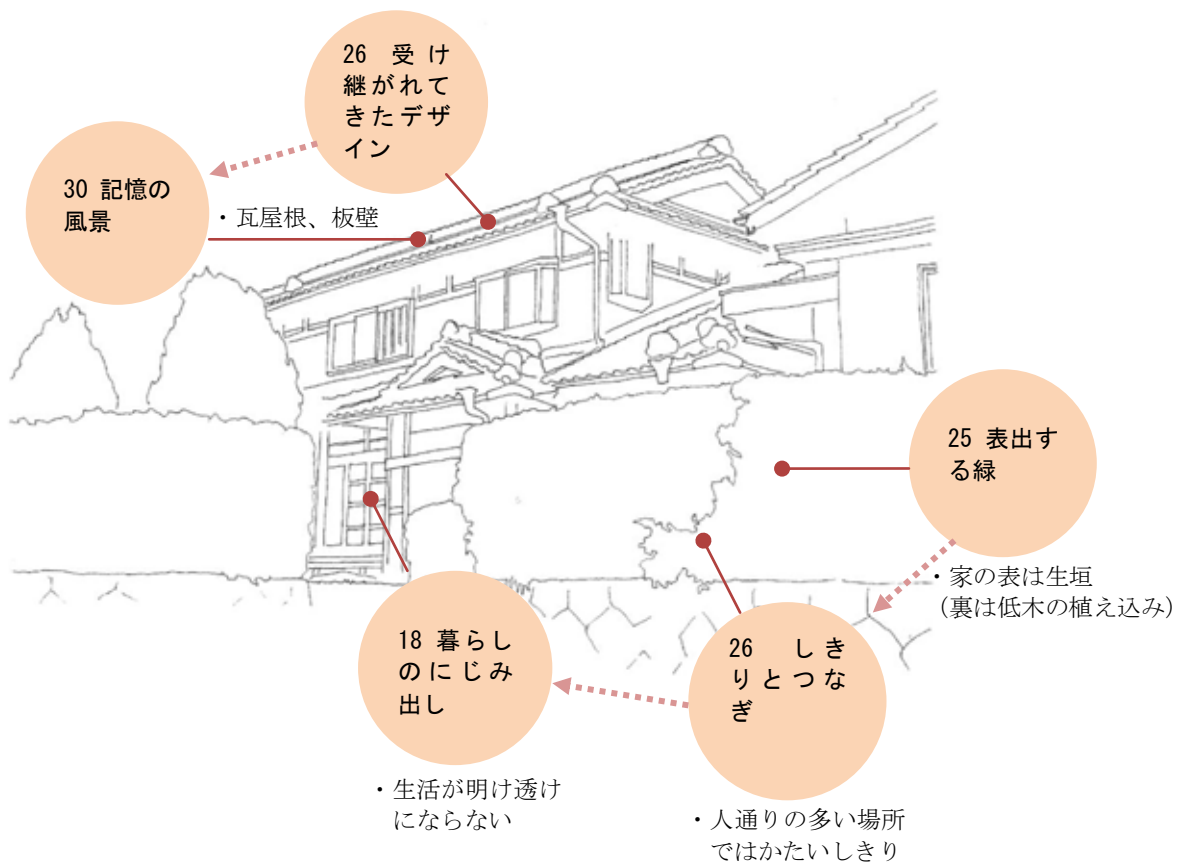
(2) どのように建てれば良いかを考える

- 原風景となるような景色を残していけるように、田園景観の要素を受け継ぎたい
- 生活に周りの田園風景を取り入れつつ、適度に目隠しをして気持ちよく住みたい

(3) 使えるパターンを考える

- ヤマ・ムラ・ノラの層構造
- 受け継がれてきたデザイン
- 表出する緑/●しきりとつなぎ

(4) パターンを組み合わせてデザインを考える



田園景観を受け継ぎ損ねないために、建物の素材や色は、なるべく背景のヤマの緑やノラの農地に溶け込むような落ち着いたものにして、建物の高さも周りの家と同じくらいになるように気を付けました。そして、勾配のついた瓦屋根や板壁など、昔ながらのデザインを取り入れました。

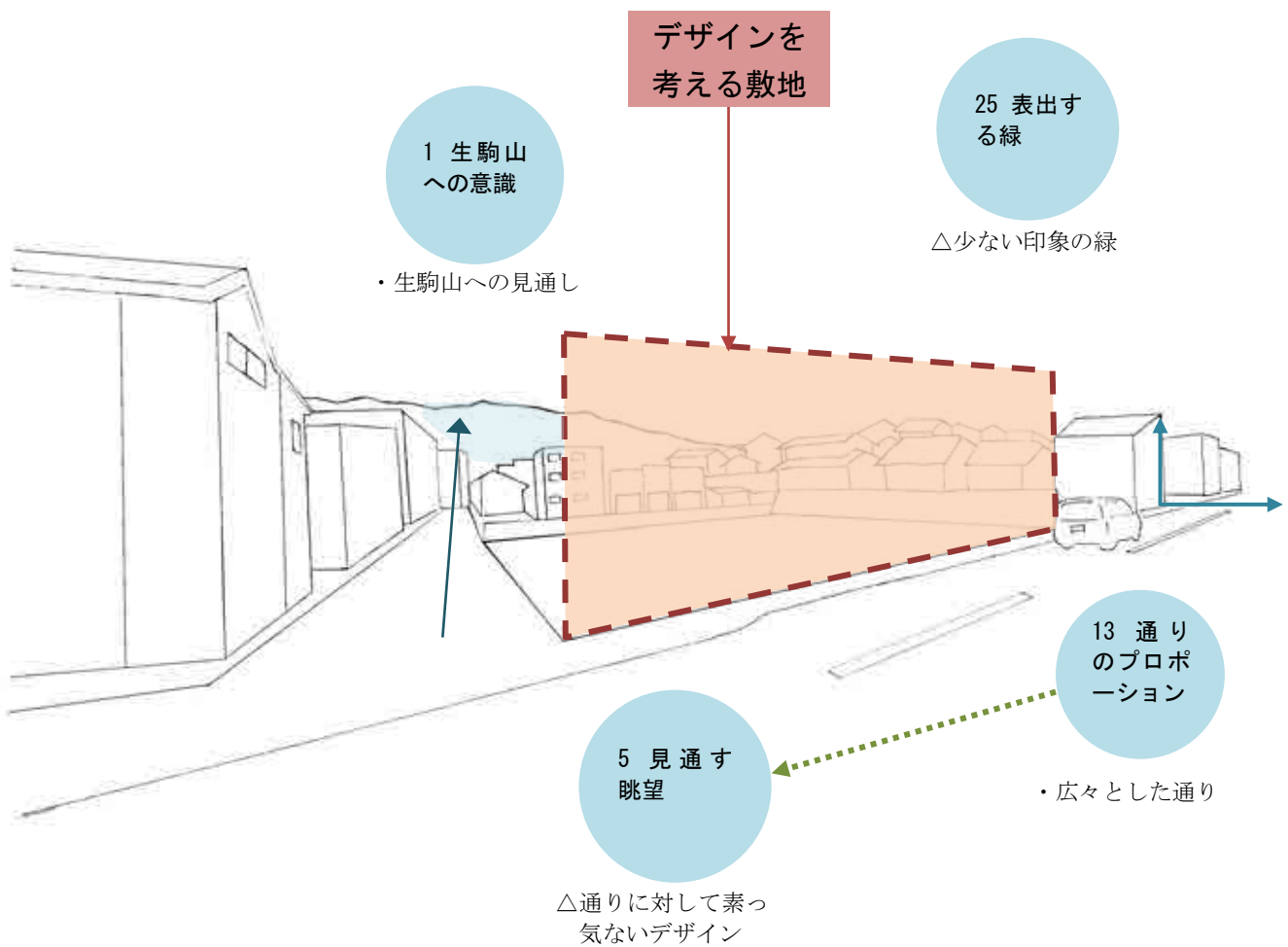
集落の通りの特徴にならない、家の表側の通りに面していてよく人が通るところは、ややかたいしきりにして、逆に、家の裏側の田んぼに面するところは、低めの植え込みの開放的なしきりにしました。これによって、プライバシーをある程度確保しつつ、閉鎖的になりすぎないようにしました。

4. 中高層マンションでのデザインの例

(1) 敷地周辺の景観の特性を読みとる

○生駒山が映りこむ景観

- ・道路から敷地越しに、生駒山を望むことができます



△単調な建物で緑も少なく、親しみに欠ける景観

- ・緑が少なく、ややうるおいに欠ける印象を受けます
- ・周りには、通りに対して素っ気ないデザインの建物も見られます

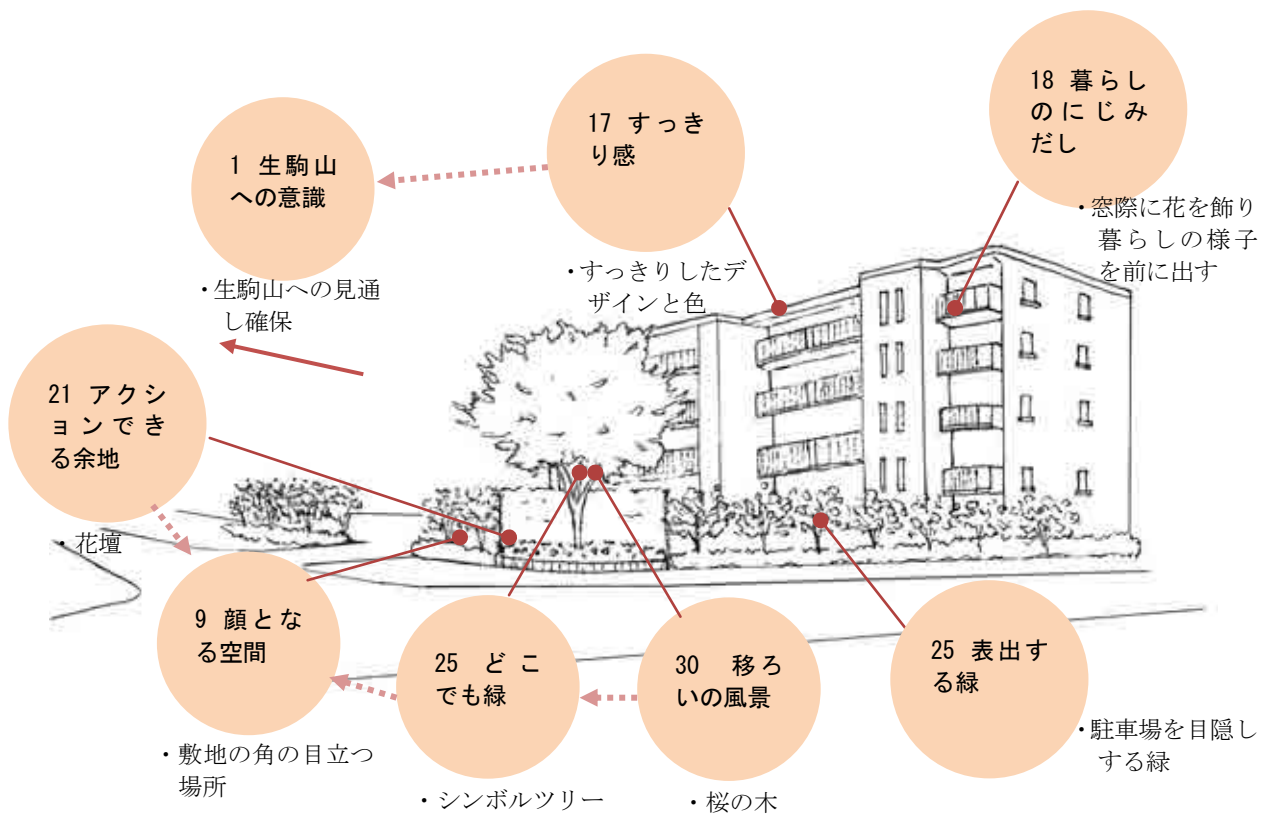
(2) どのように建てれば良いかを考える

- 暮らす場所として愛着を持てるような空間にしたい

(3) 使えるパターンを考える

- 顔となる空間、移ろいの風景
- どこでも緑
- アクションできる余地
- 人が交わる場所、暮らしのにじみだし
- 生駒山への意識
- すっきり感

(4) パターンを組み合わせるデザインを考える



親しみ・愛着が持てて、永く暮らし続けたいと思えるような住宅とするため、敷地や緑・花と住民の関わり（アクション）を増やすような工夫を取り入れました。

季節の移ろいを感じられるように、敷地の角に、シンボルツリーとして桜の木を配置しました。また、住民自身が花植えなどに関わることができるような空間として、シンボルツリーの足元は花壇にしました。訪れる人にとっての顔となる空間ともなり、気持ちよくお出迎えすることができます。

その一方で、周りとの関係にも配慮し、通りから見える生駒山への視線を遮らないように、建物を敷地の片側に寄せて配置しました。

建物のデザインは、無機質な印象にならないように気を付けながらなるべくすっきりとさせ、生駒山の緑になじむような落ち着いた色にしました。駐車場が通りから丸見えにならないように、低木で植栽を施しました。

5. 商店街でのデザインの例

(1) 敷地周辺の景観の特性を読みとる

○ぶらぶらと買い物しやすい、親密な空間

- ・ぶらぶら歩くにはほどよい通りの幅で、アーケードで囲まれており、親密な空間になっています

○新鮮さ、特別感の演出

- ・商売の様子や季節感を感じさせる飾り付けや店先のディスプレイが施されています

28 仮設の
風景

- ・四季折々の行事に合わせた飾り付け
- ・店先のディスプレイ

13 通り
のプロポ
ーション

- ・ほどよい幅の通り
- ・アーケード

デザインを
考える敷地

16 商いの
コミュニ
ケーション

26 しき
りとつな
ぎ

- ・開放的な軒先のデザイン

○店の中と外のやり取りの様子

- ・通りから店内に並ぶ商品がうかがえ、歩く人の視線を誘いこみます
- ・お店の人とお客さんのやり取り（コミュニケーション）が生まれています

(2) どのように建てれば良いかを考える

●通りのにぎわいをとぎれさせないように、
にぎわいとおもてなしの演出をしたい

●お客さんが入りやすい店構えにしたい

(3) 使えるパターンを考える

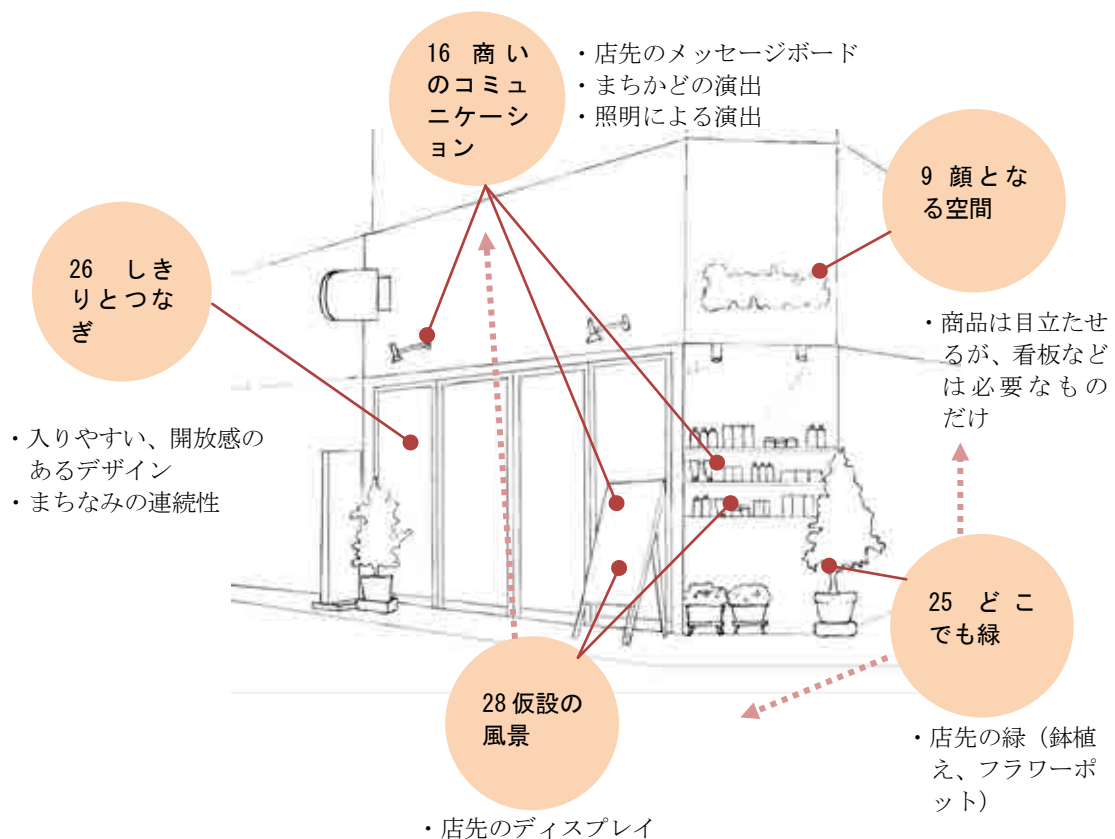
●商いのコミュニケーション

●顔となる空間

●どこでも緑

●しきりとつなぎ

(4) パターンを組み合わせてデザインを考える



歩いて楽しい、にぎわいとおもてなしの演出を意識して、おすすめ商品の情報や、店の特徴を知ってもらえるようなツールとして、立て看板を店先に出すことにし、鉢植えの緑を店先に並べるようにしました。

外からどんな商品があるのかをアピールし、お客さんが入りやすい店構えにするために、開放感のある店舗のデザインとし、正面付近はガラス張りにし、季節によっては入口付近の扉を開放できるようにしました。

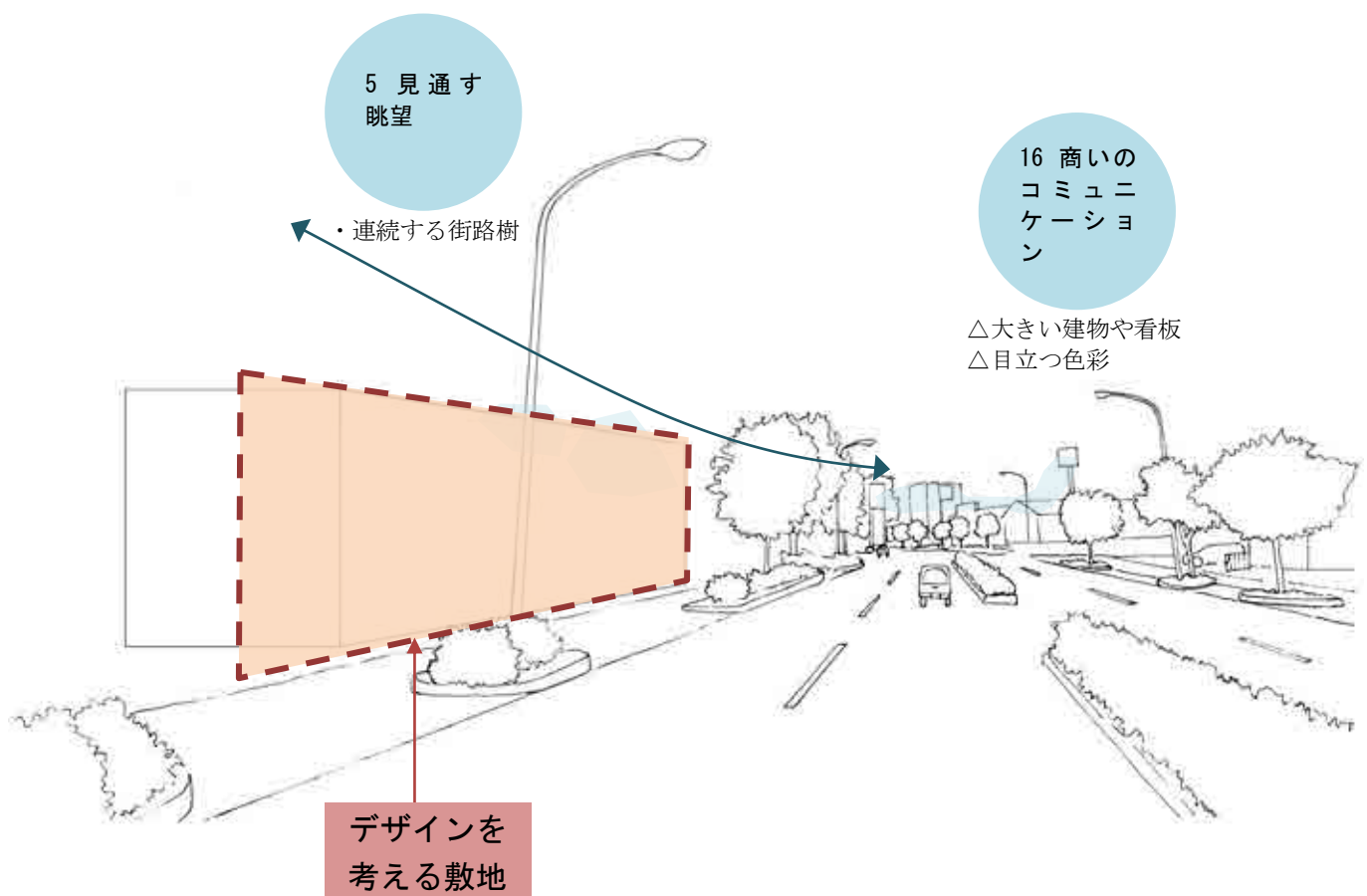
その一方で、店構えが顔としての印象を持つことから、商品は目立たせつつ、店名を示す看板などは最小限にしました。

6. ロードサイド店舗でのデザインの例

(1) 敷地周辺の景観の特性を読みとる

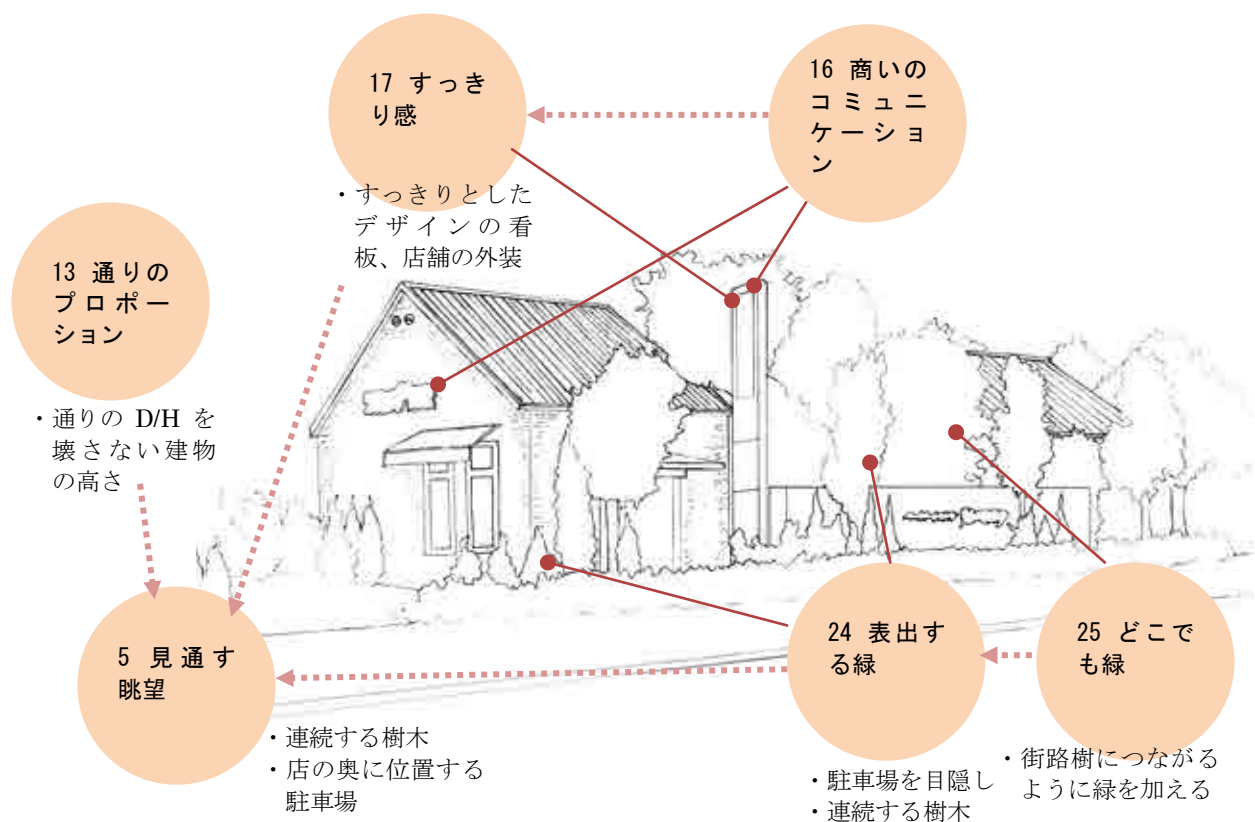
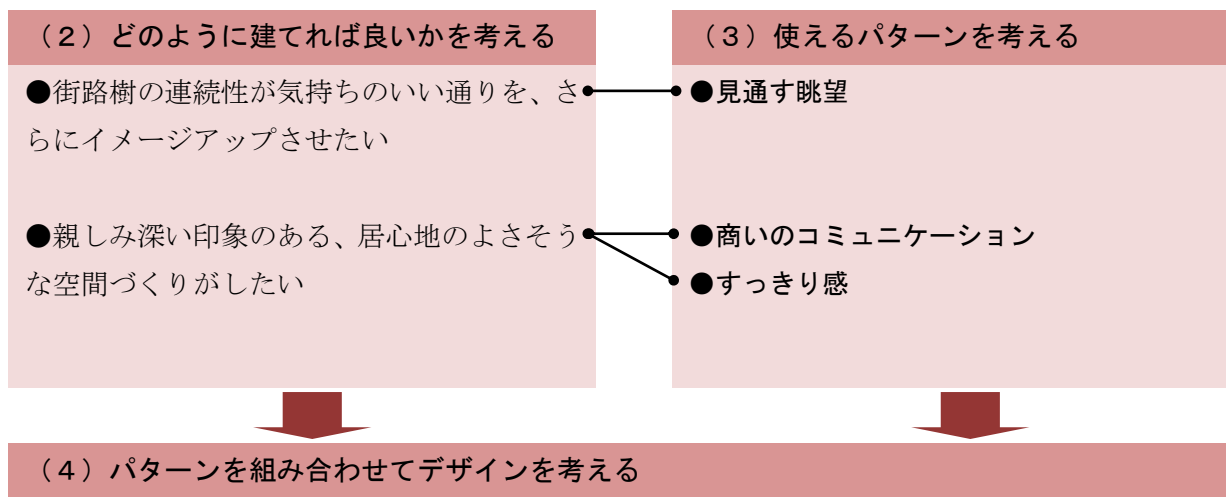
○見通しがよく街路樹が連続している景観

- ・連続する街路樹が通りの奥へと視線を誘導しています
- ・街路樹が店舗の建物や看板を隠して、雑然とした印象を緩和しています



△統一感のないまちなみ

- ・一部の店舗は自動車からも認識しやすいように大きく、また目立つ色彩が用いられており、見通しや通り全体としての統一感を妨げています



街路樹で気持ちのいい通りをいかして、お店の中にもその緑があふれる様子がうかがえる、居心地のよい建物とすっきりした看板、うるおいあるオープンスペース（空地）のデザインを考えました。

街路樹とあわせて敷地の周りにも緑を加えて、敷地の中からも緑が楽しめる空間とし、看板や店舗の外装も緑になじみやすい、すっきり感を重視したデザインにしました。

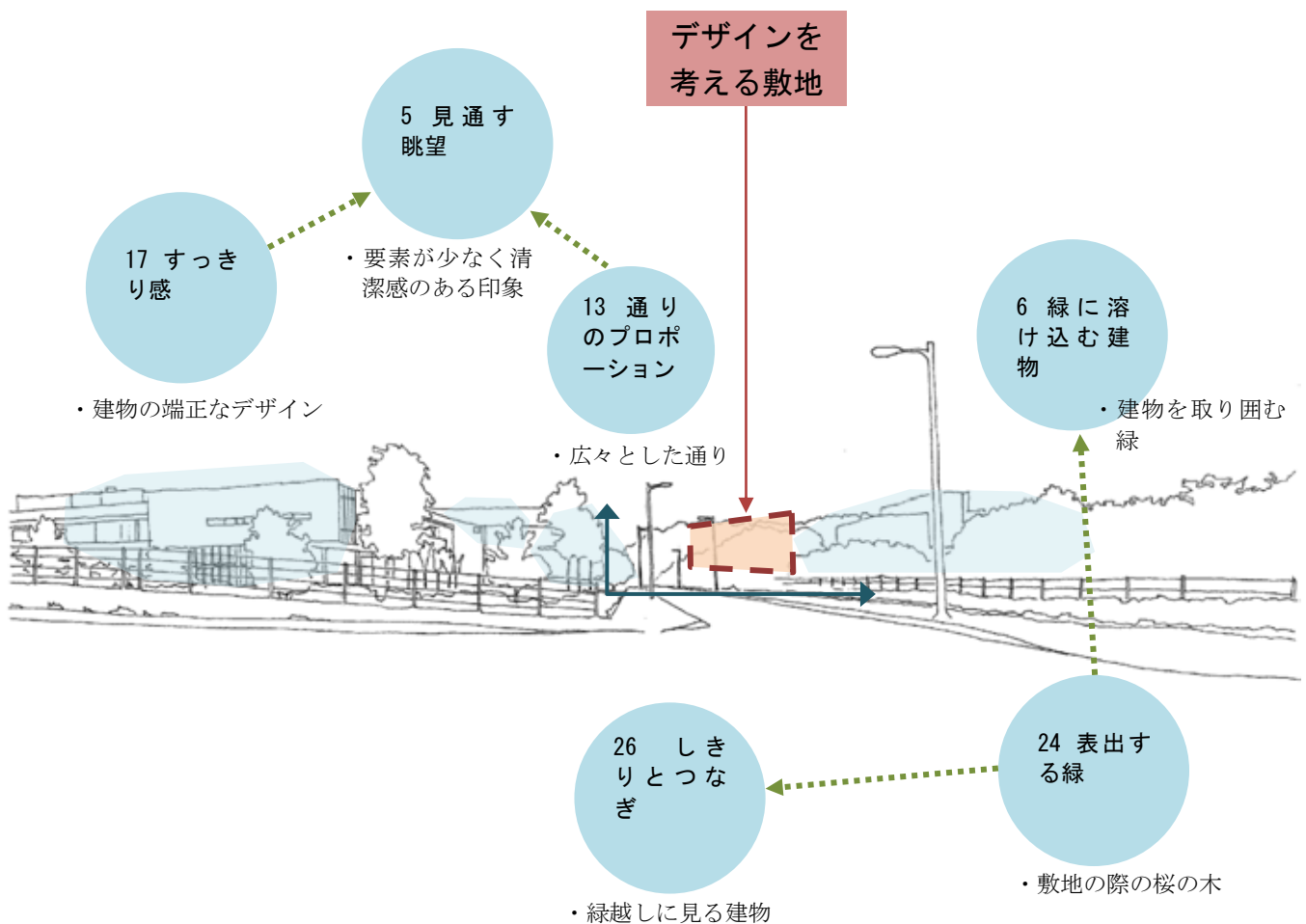
広々とした見通しのよい、緑が連続する通りの良さを生かし、通りに対して過大で寄り付きがたい建物にならないような、建物の高さ・配置を心がけました。また、途切れている街路樹をつなげることを意識しながら、中木、高木を店の前に配置するとともに、駐車場は建物の奥に配置しました。

7. 工業地でのデザインの例

(1) 敷地周辺の景観の特性を読みとる

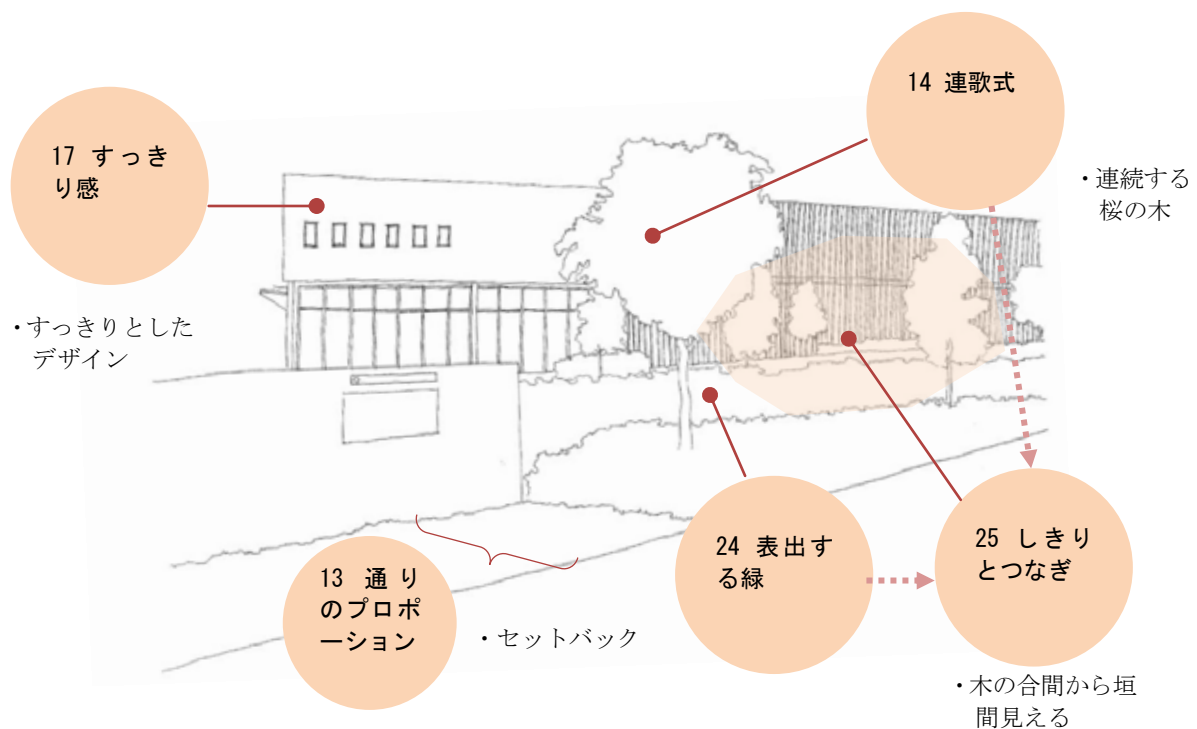
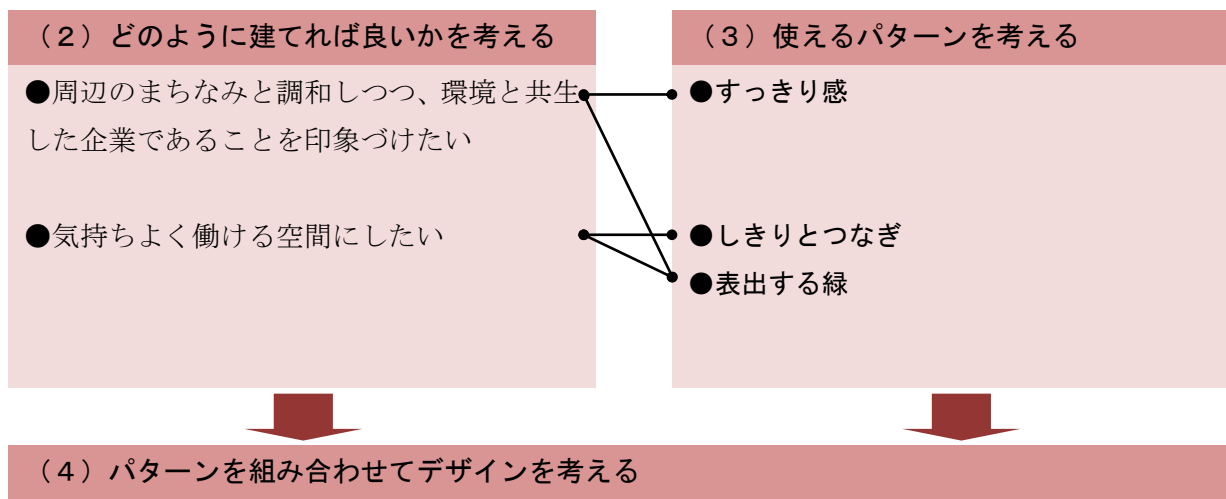
○すっきりとして清々しい景観

- ・屋外広告物やサインが少なく、シンプルな建物のデザインで、すっきりと清潔感のある印象です
- ・通りが広く、見渡す眺望で、その印象が一層強められています



○建物が緑に溶け込む奥行き感のある景観

- ・敷地の境界には桜の木が並べて植えてあり、道路からはこれらの緑の合間を通して建物を見ることができ、奥行きを感じさせます
- ・離れて見ると、工場の一つ一つが緑に溶け込んでいるように見えます



周辺のまちなみと調和しつつ、環境と共生した企業であることを印象づけることを考えて、建物のデザインは無彩色（白）を基本としたすっきりとクリーンなイメージのものとしました。そして、空地にできるだけ緑を多く配置し、敷地に連続する緑からすっきりとした建物が垣間見える、奥行き感のある景観になるようにしました。

また、従業員や来社する人にとっても気持ちが良いと感じてもらえるよう、建物をセットバックさせて、広々とした通りのまちなみを継承しました。その上で、隣から続く桜の木をつなげて敷地内に植え、通りを快適に歩けるように、また木の合い間から建物が見えるようにしました。